

# 医療最前線 令和を担う

県立中央病院から

〈180〉

山梨県立中央病院外科の渡辺英樹医師(31)は週5日のうち、4日で胃や腸など一般外科領域の手術を執刀し、残る1日は外来を担当する。外来日に手術を請け負うこともしばしばで、「ほ

医学部を志望した。山梨大医学部を卒業後、初期研修を受けた同病院で手術を経験し、「大病をきれいに早く治せる」と魅力を感じて外科を選んだ。

近年、外科領域の技術革新は著しい。渡辺医師が初期研修を

「VINCH」が登場。同病院は、2016年に最新型のダヴィンチXiを導入し、積極的にロボット手術を行っている。昨年4月に保険適用範囲が拡大し、同

病院でも前立腺がん、腎臓がん、子宮がんに次いで胃がん、肺が

「なりたいたい」と研さんを積む。「各診療科の横の連携、上司と部下との縦の連携が密で、恵まれた環境で勉強させてもらっている」

重篤な患者に対応する県内唯一の3次救急医療機関でもある

## 外科・渡辺英樹医師

# 週4日執刀、手術の技磨く

同病院。胃や腸の壁が破れる消化管穿孔や、腸閉塞などの緊急手術を請け負うこ

ぼ毎日、手術しています」と笑う。

甲府南高出身。大学浪人を1年経験し、「せっかくな時間があったから志を高く持ちたい」と

受けていた6年前は、開腹手術が中心だったが、今は小さな傷口で患者負担が少なく、回復も早い腹腔鏡手術が主流になりつつある。

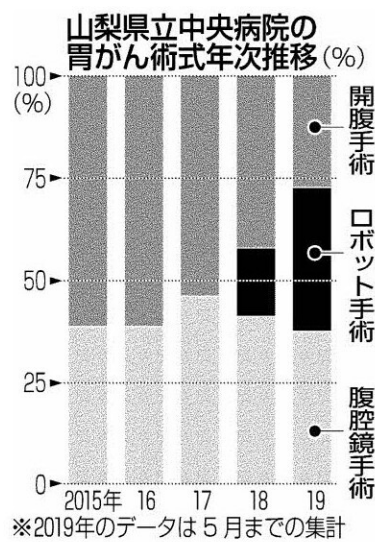
さらに、手術支援ロボット「ダ

んのロボット手術が始まった。食道がんや直腸がんにも広げようと準備しているところだ。

渡辺医師は「まずは開腹手術、腹腔鏡手術を習得し、いずれはロボット手術も執刀できるよう

とも多い。ショック状態の患者も少なくなく、術後、集中治療室(ICU)での管理も担当する。「院内の1階から9階まで日々走っています」

手術などで病棟にいる時間は限られるため、看護師などの連携も重要だ。「担当の患者さんの様子や細かな訴えを見聞きしてくれ、みんなで診るチーム医療ができています」と感謝する。



わたなべ・ひできさん 2013年山梨大医学部卒業後、県立中央病院での研修を経て18年から現職。笛吹市出身。31歳。妻と2人暮らし。趣味は釣り、書道。

「視野を広く持ち、高い技術や資格を取得して、山梨の患者さんのために第一線で活躍したい」と渡辺医師。今日も患者のためにメスを振るっている。

Ⅱ第2、4木曜日に掲載します